

2017年6月1日

日本ガス協会 岡本会長 会見発言要旨

本年4月に都市ガスの小売全面自由化がスタートし、2ヶ月が経過した。直近のスイッチング申込件数は、約21万件となっている。

自由化に伴って出てきた特徴的な動きを申し上げる。ひとつは、大手電力事業者が参入し、他の事業者と連携を図りながら、小売事業において活発なスイッチ営業を始めていることである。ふたつめは、都市ガスの卸供給面での競争が起こっていることである。従来、中小規模の事業者は、既存の大手ガス事業者から卸供給を受ける場合が多かったが、その卸供給を新規事業者にスイッチしようとする動きがある。

こうした中、多くの既存ガス事業者が新しい料金メニューの導入や、生活関連サービスの充実等に取り組んでいる。このような動きは、今般の全面自由化の大きな目的である「お客さまメリットの向上」に資するものであり、評価すべき点であると考えている。

今後、新規と既存の双方の事業者が切磋琢磨し、お客さまの選択肢拡大につなげ、ひいては、都市ガス・天然ガスの普及拡大・利用拡大を実現していくことを期待している。

続いて保安について、一言申し上げる。全面自由化後も、保安がガス事業の根幹であることに変わりはない。日本ガス協会では、新規参入事業者の方々にも入会いただける制度を新たに設け、既存事業者と同等の保安関連情報や研修機会の提供を行っている。

また、既存の導管事業者と新規参入事業者の間においても、連携・協力を深め、保安の向上に向けた取り組みを始めている。

今後も保安に関して、全ての事業者がしっかりと連携することで、ガス業界が一体となり、お客さまに安全に、そして安心して都市ガスをご利用いただくよう努めていく。

最後に、LNG市場を取り巻く環境について触れる。世界のLNG需要は堅調に増加しているが、供給源の多様化もあり、当面供給力は需要を大幅に上回る見通しである。この機会をとらえ、より安価かつ柔軟なLNG調達につながる取り組みを加速させたいと考えている。

また、本年は、我が国でLNGに関する国際会議が多く開催されており、国内外で関心が高まっている。この機会を活用し、我々の考え方を積極的に発信していきたいと思っている。

以上